



# 取引先との関わり

2025年のあるべき姿

顧客に信頼される製品を持続的に生産、販売するために  
CSR調達を基盤としたQCDを追求する

## PLAN & CHECK //

### 2020年度の目標 & 評価

達成状況

① 主要取引先のCSRアンケート ～フォローアップのPDCA <sup>*1</sup> 化	★★★★
② 主要取引先のマネジメント(QCD <sup>*2</sup> +CSR)強化	★★★
③ 取引先とのパートナーシップの醸成	★★★
④ 全社的なCSR調達推進活動の継続	★

★★★★目標達成、★★★やや未達成、★目標未達成

※1 PDCA: Plan (計画)、Do (実行)、Check (評価)、Action (改善)

※2 QCD: Quality (品質)、Cost (コスト)、Delivery (納期)。

### 2021年度の目標

- ① 主要取引先の第2回取引先CSRアンケート開始
- ② 主要取引先のマネジメント(QCD+CSR)強化
- ③ 取引先とのパートナーシップの醸成
- ④ 全社的なCSR調達推進活動の継続

## DO //

### 基本的な考え方

古河機械金属グループは、「古河機械金属グループ調達基本方針」に基づき、公正かつ公平の原則と総合的な経済合理性、法令遵守と機密保持の精神にのっとり、取引先との情報交換などのコミュニケーションを通じて、共存共栄・互恵的な信頼関係の維持・構築を目指すとともに、取引先とのパートナーシップのもと、CSRに配慮をした調達活動を推進します。

また、海外鉱山からの銅鉱石の調達については、環境への影響や労働問題などに配慮した調達に努めています。

### サプライチェーンを含めたCSR活動の推進

当社グループ調達部門は、当社グループのみならず取引先をはじめとするサプライチェーン全体での協力関係が不可欠と考えており、2016年から新規取引先を含めたすべての取引先に当社グループCSR調達の趣旨説明と調査を開始し、2019年度には初回取引先CSRアンケートを実施しました。

初回の取引先CSRアンケートの反省点を踏まえ、2021年度からは調査内容の正しい理解や評価が得られるような表現となるように改善した第2回取引先CSRアンケートを開始します。

また、サプライチェーンを含めたCSR活動の推進と維持・向上のために、取引先CSRアンケート～フォローアップのPDCA化を進めています。

### 当社グループ事業会社の主要取引先への初回取引先CSRアンケートの総括

主要154社に実施した取引先CSRアンケートには、「サプライヤーのモニタリング（環境面）」および「社会的問題に関する

サプライヤーの監視」についての項目も含まれており、両項目とも、全社から回答を得ました。

この調査の結果、CSRの認識が薄いと思われる約20社について追加アンケート・現地監査フォローアップを行いました。アンケートの質問に対する誤った理解や過剰に厳しい自己評価により正しい評価結果が得られていなかった回答が見られたため、当社での取り組みを紹介するとともに、正しい理解や評価を得られるような説明を行い、この約20社については問題がないことが確認できました。

### ●取引先CSRアンケートに含まれる項目(人権・環境など)

[人権の尊重、人権侵害の防止に関する調査項目]

- (1) 児童労働、強制労働、不当な低賃金労働などの禁止
- (2) 従業員に対する差別、ハラスメントのない職場環境作り
- (3) 労働関係法令の遵守、労働環境の整備

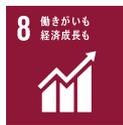
[環境保全に関する調査項目]

- (1) 環境保全に関する国際規格、法令および協定等の遵守
- (2) 省エネルギーの配慮、資源の有効活用と廃棄物の削減
- (3) 製品に含有される化学物質および製造工程で外部環境に排出される化学物質の適切な管理

### ●取引先CSRアンケート実施報告

	2016～ 2018年度	2019年度	2020年度
アンケートを実施した取引先数	主要154社 (全体約1,000社)	100%回収	—
ヒアリング調査を実施した取引先数 (必要業者のみ 計画8社)		3社 (問題なし)	なし*

※コロナ禍のため停滞



## ACTION //

[責任者メッセージ] - 2020年度の総括 -

### 取引先とのパートナーシップを深め、 サプライチェーンを含めたCSR活動を推進

資材部長  
池田 直樹



2020年度は、2016年度～2019年度に実施した初回取引先CSRアンケート全般に関する評価と改善を実施しました。評価としては、アンケートにご協力いただいた取引先の方々にフォローアップの面談を実施した際に、質問内容および選択式の回答内容がわかりづらいとの指摘を受けました。そのため、正しく理解し判断していただけるような内容に改善をしました。2021年度は、改善した内容で第2回目の取引先CSRアンケートを中核事業会社から実施する予定にしています。

引き続き、取引先の皆さまには当社グループのCSR調達をよりご理解いただくために、フォローアップなどの緊密なコミュニケーションをとり、パートナーシップを深めてまいります。そして、CSR活動を通じたサプライチェーン全体で社会への貢献を果たしてまいります。

## 調達担当への教育

古河機械金属(株)資材部では、部員向けの勉強会の実施を通じて常に調達体制の強化を図っています。

教育に含まれるテーマとしては、環境・品質・人権などがあり、定期的に情報を共有しています。

## 主要取引先との関係強化： パートナーシップの醸成

当社グループでは、取引先は相互発展を目指す大切なパートナーと考えています。

パートナーシップをより強固なものにしていくために、2021年度も継続してCSRの取り組みを通じてより相互理解を深め、信頼関係をさらに醸成していきたいと考えています。

## 取引先への技術指導

当社グループ製品の信頼性を保ち続けるためには、社内はもちろん、調達品レベルの信頼性も保たなければなりません。そのため、パートナーである取引先の製品の品質のみならず、人権、環境、安全など、様々な面での調査・指導・管理を行うことが重要となります。

当社資材部では、機械系中核事業会社(古河産機システムズ(株)、古河ロックドリル(株)、古河ユニック(株))と協力し、必要に応じて取引先への指



国内協力会社への技術指導

導・提案などを行っています。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、限られた方法での取引先の技術指導となりました。特に海外の協力会社とは、動画を用いたウェブ会議にて加工工程、部材管理、品質検査体制、環境および安全対策などの確認、指導を行いました。国内の協力会社には、訪問の了解を得た上で、少人数、短時間での確認、指導を行いました。

## 資材戦略会議

当社資材部では、機械系中核事業会社の資材部門責任者で構成する「資材戦略会議」を年2回、開催しています。

この会議では、「古河機械金属グループ調達基本方針」に基づいた調達活動推進のため、年度目標に対する各事業会社の進捗確認、課題解決に向けた意見交換を行っています。

2020年度は、調達部門の2025年ビジョンの中核と位置付けている、パートナーシップ醸成に向けたサプライヤーマネジメントの強化と資材部門におけるCSR調達についての具体的な検討や意見交換を行いました。

また、資材戦略会議の方針にのっとった取り組みをより具体的に検討する場として、月に1回、事業会社ごとに個別定例会議を実施するとともに、案件ごとに都度打合せを実施し、よりきめの細かい活動を行っています。